

地球科学輻合ゼミナール

(2013年度 後期 第2回)のご案内

東北地方太平洋沖地震後の内陸地震活動
—東西に引っ張られたのに、どうして活発化するのか?—

飯尾 能久

京都大学 防災研究所

東北地方太平洋沖地震の発生後、日本列島の内陸における地震活動も活発化した。日本列島の内陸では、関東南部などを除いて、基本的には、太平洋プレートの沈み込みに起因する東西圧縮力によって、浅い地震が発生すると考えられている。東北地方太平洋沖地震による内陸における応力変化は、基本的には、東西の伸びであるので、どうして内陸の地震活動が活発化するかは難しい問題である。東北地方太平洋沖地震による応力変化と間隙水圧の効果が候補として上げられている。これらについての解析結果をreviewして、内陸地震活動の原因と地震発生場の特徴について考える。

10月23日(水) 午後4:30~午後6:00

場所: 理学研究科6号館 303号室